

FGC NEWS



公益財団法人 世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

No.7

October 2015



世界こども財団は
「公益財団法人」に生まれ変わりました

東日本大震災 支援活動

- 相馬市で健康診断・健康相談を実施
- 相馬市のこどもたちとサッカー交流



海外支援活動

- エリトリアの東京五輪事前キャンプ招致
 - 神奈川県西湘地区の自治体と協定調印
 - ネパール大震災支援
- 緊急募金活動の報告



世界こども財団は、 一般財団から公益財団に 衣替えしました



理事長 江口研二

公益法人として更なる発展を

日頃から世界こども財団に対してご支援をいただき大変ありがとうございます。

2010年の財団創設から5年、この度内閣府より「公益財団法人」としての認定を受けることができました。

今後は公益目的事業に沿う法人運営の重要性を再認識し、一般財団法人の時にも増して気持ちを新たに、世界のこどもたちや青少年の健全育成に尽力してまいりたいと考えております。

特に、従来から力を入れている開発国の未来を担うこどもたちのスポーツ振興などを通じた健全な育成と国際的な協調をめざし、活動の輪を広げることに努力したいと思います。

海外支援としては、従来のブータン、ミャンマーなどに加えて、今年度から新たにエリトリアの青少年に対する支援も企画しています。国内での支援としては、従来の東日本大震災被災地における青少年支援などについて引き続き活動を予定しています。

微力ではありますが公益財団法人としての自覚をもとに、一步一步着実に信頼に基づく活動を展開していく所存です。

旧来のご支援に厚く感謝申し上げますとともに、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

公益財団法人世界こども財団の活動

【目的】

日本国内及び世界の国々の中で、さまざまな困難を抱えながらも、その将来を必死に切り拓こうと努めているこどもたちや青少年を支援し、かつあるべき共生社会の人材として自立できるよう、その健全な育成に寄与することを目的とする。

【事業内容】

- (1) 被災地のこどもたちや青少年への支援事業
- (2) こどもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業
- (3) こどもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための事業
- (4) こどもたちや青少年の自立支援事業
- (5) この財団の目的を達成するために必要な事業

各界からのメッセージ

公益財団法人に生まれ変わった世界こども財団に対して、
日頃ご支援、ご協力をいただいている皆様からメッセージをいただきました。

株式会社ルミネクリエーツ

代表取締役社長 阿部 浩

弊社は商業施設「ルミネ」の施設警備をしております小さな会社ではありますが、CSR活動の一環として東日本大震災へのボランティアをはじめ活動を行っております。今度、御財団の活動に共感し僅かではありますが協力させて頂きました。

ミズノ株式会社 スポーツプロモーション部

部長 中村 薫

この度は公益財団法人への認定、おめでとう御座います。長年に渡る貴財団の御努力に敬意を表しお祝い申し上げます。また、星槎グループ様と共同ですすめさせて頂いているエリトリアプロジェクトを通じて、ミズノの経営理念である「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社会に貢献する」を世界のあらゆる人々、多くの子供達に対し実践してゆきたいと思っております。

コグメド・ジャパン株式会社

代表取締役社長 平野 剛

学校が容れ物でなく、教育が提供されるものでないように、財団は思いであり、未来であり、子どもは自らであり、自らに子どもを含んでいる。現在の瞬間に関わりあっており、だから世界なんだと応援しております。

株式会社 DOE

代表取締役 吉田 洋平

この度、公益財団法人の認可を心からお慶び申し上げます。未来を繋ぐ貴財団の働きに感銘を受け、法人会員の一人として私たちができる事を行っていきたいと思っております。これからのご活躍をお祈り申し上げます。

東京大学医科学研究所

先端医療社会コミュニケーションシステム社会連携研究部門
特任教授 上 昌広

人が生きていく上で何が大切でしょうか。信頼出来る仲間だと思います。私にとって、世界こども財団の皆さんは、そのような仲間です。東日本大震災後の福島での復興支援など多くの活動を通じ、多くのことを学ばせて頂きました。地道な活動を通じ、若者を育てる姿に感銘を受けました。益々のご活躍を祈念しています。

歌手・世界こども財団評議員

加藤 登紀子

どんな時代にも生まれてくる子供こそが希望です。戦後70年の今年、たくさんの戦争体験が語り伝えられました。私も戦争の終わる少し前の絶望の時代に生まれた子供です。でも生まれた時がどんなに悲惨でも、生まれた私たちはピカピカの未来だったと胸を張って言いたいです。

地球の上のどんな子供たちも大切に！

小田原箱根商工会議所

会頭 鈴木 悌介

こどもたちは未来の財産。ふるさとは未来からの借り物。こどもたちが夢を持てるふるさとづくりこそ、私たち地域経済団体の役割だと思います。FGCと手を携えて。

フルサワ印刷株式会社

代表取締役 眞下 美紀

こどもたちの笑顔は希望であり、未来へのエネルギーとなります。貴財団のたくさんの活動は私たちの誇りであり、私たちにも夢と希望を与えてくれます。微力ではありますが、心からご支援申し上げます。

公益化及びこれまでの活動を報告する会を9月11日に開催しました。

その際、次の皆様からも祝辞とご声援をいただいております（敬称略、順不同）。

外務副大臣 城内実、神奈川県知事 黒岩祐治、相馬市長 立谷秀清、小田原市長 加藤憲一、箱根町長 山口昇士、大磯町長 中崎久雄、文部科学大臣補佐官 鈴木寛

※報告会の詳細は次号にてご報告させていただきます

健康診断・健康相談を実施 福島県相馬市で5回目

福島県相馬市では、東日本大震災以降、被災された方々や仮設住宅入居者を対象とした健康診断を毎年実施しています。今年度は7月16日から20日の5日間で439名の方々が受診されました。

今回も東京大学医科学研究所の上昌広研究室を中心に診察に当たっていただいた医師は、亀田総合病院の小原まみ子先生、東京大学医学部の渋谷健司教授、神奈川県立病院機構の松村有子先生、浜松医科大学の大磯義一郎教授、ときわ会常盤病院の松野由以先生、東京大学医科学研究所の坪倉正治先生、京都大学医学部附属病院の西川佳孝先生、南東北病院の西田晨也先生、それと相馬中央病院の標葉隆三郎院長、越智小枝先生、森田知宏先生、山本佳奈先生です。

X線および心電図、測定は瀬戸健診クリニックが担当しました。また、今年も福岡豊栄会病院の協力の下、ロコモティブシンドローム（生活不活発病）検診を実施しました。ロコモティブシンドロームとは、骨や関節、筋肉など運動器の働きが衰え、日常生活の自立度が低下してしまう状態をいいます。星槎グループ・世

界子ども財団は健康診断がスムーズに実施できるようにサポートさせていただきました。

今年の健診に参加した先生方から、震災後早期に目立った肥満、高血圧の患者が減り、放射線に悩む人もほとんど見当たらず、健康面では震災前に戻りつつあるという意見が多く聞かれました。

今年度で仮設住宅が閉鎖される予定もあり、被災者をケアする場合は、仮設住宅から、市内のクリニック・病院へと移行していきます。今後は地域をあげたバックアップ体制整備が必要となってきます。

今回の健診で、小さなお子さんを連れのお母さんが受診されていました。お母さんのお話によれば、この健診は震災後から毎年行われているだけでなく、しっかりとデータも管理されており昨年、一昨年との比較した診察診断が得られるから親子で受診していると笑顔で話されていました。年々受診される方は減っていますが、自己の健康管理のバロメーターとされている方も多くいらっしゃる健康診断でした。

診察会場別受診者数

7月16日	柚木サポートセンター	69名
7月17日	相馬市保健センター	99名
7月18日	相馬市保健センター	85名
7月19日	相馬市玉野公民館	118名
7月20日	大野台サポートセンター	68名
総受診者数		439名



採血する看護師の皆さん



健康相談も行いました



問診にも時間をかけます

健康診断を終えて 相馬市の復興は順調

東京大学医科学研究所

特任教授 上 昌広

7月16日から20日にかけて、相馬市の仮設住宅入居者を対象とした健康診断を実施しました。東日本大震災以降、恒例の行事となっており、今年で5回目です。

今年も星槎グループ・世界子ども財団の皆さんには大変御世話になりました。健診会場の設営・運営から、健診に参加する医療関係者の「星槎寮」での宿泊・食事の世話などを一手にお引き受けいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年の健診に参加して、改めて相馬市の復興が順調であることを実感しました。大野台や柚木の仮設住宅の入居者は、震災当初の2～3割程度に減っていました。多くの入居者が、再建した自宅や、相馬市が準備した復興住宅（相馬井戸端長屋）に移ったようです。

ただ、問題もあります。仮設住宅の人口密度が低下したため、従来のような相互扶助が機能しなくなっているのです。今年5月には、震災以来ゼロだった仮設住宅での孤独死が相馬市でもありました。

今後、仮設住宅の入居者はますます減少します。縮小するコミュニティーを如何に維持するかが、重要な問題となってきます。

もう一つの問題は、生活再建の目途がたっていない人々の存在です。相馬市の仮設住宅には、南相馬市小高区や浪江町、飯館村からも避難してきています。彼らの帰還の目途はまだ立っていません。

また、経済的に困窮している入居者の中には、家賃が無料の仮設住宅から出ることが出来ない人もいます。このような方々は、しばしば健康問題を抱えています。

相馬市は今年度いっぱい仮設住宅を閉鎖する予定です。ただ、事態は非常に流動的です。来年度以降の目途は立っていないと言ったほうが正確かもしれません。

来年度以降、仮設住宅の運営がどうなるにせよ、相馬市では、少なからぬ人が悩みを抱え、健康問題に直面しているでしょう。どのような形にせよ、私たちの研究室は、被災者の方々に寄り添って行きたいと考えています。

ただ、私たちには、相馬市の被災者を支援するノウハウもスキルもありません。星槎グループ・世界子ども財団の皆さんのご厚意にすぎるしかありません。ぜひ来年も私たち、ひいては相馬の皆様にお力添えをいただければ幸いです。何卒、宜しくお願い申し上げます。



上（かみ）昌広先生



7月18日、相馬市役所保健センターにて。
立谷相馬市長（前列右から3人目）を囲む医療支援班の皆さん

福島県相馬市とサッカー交流 星槎湘南大磯キャンパスに82人を招待

福島県相馬地区の子どもたちを星槎湘南大磯キャンパス（神奈川県大磯町）に招待して行う「東日本大震災に係わるサッカー活動交流支援」は、2011年からスタートして今年で5年目を迎えました。

8月8日と9日の2日間、ジュニア（U-11とU-12）の相双トレセンメンバー40人と、コーチ6人、保護者34人に幼児2人を加えた、合計82人が福島県から参加しました。

初日、一行は相馬市を早朝に出発し、8時間かけて大磯キャンパスに到着。午後からは、大磯近郊の少年サッカーチームを交えた「星槎こゆるぎカップ2015」に疲れも見せず参加しました。今年は、茅ヶ崎トレセンA、Bの2チーム、OSA サッカースクールの1チーム、平塚旭SCの1チーム、相双トレセン4チームの計8チームがトーナメント方式で戦いました。

毎年茅ヶ崎トレセンが優勝しており、「今年こそ！」と試合に臨んだ相双トレセンでしたが、優勝は今年も茅ヶ崎トレセンA、2位に茅ヶ崎トレセンB、3位が相双トレセンAという結果でした。リベンジは来年に持ち越しです。

猛暑の中での大会でしたので体調を心配していましたが、熱中症や怪我人もなく無事に終えることができました。また、今年も東京大学や田園調布学園大学の学生、社会人が10人、ボランティアとして試合の審

判や運営をサポートしてくれました。

夕食後はボランティアの大学生に勉強を教わる子どもいれば、毎年恒例の「枕投げ」準備に勤しむ子どもも。ボランティアの大人も加わりスポーツマンらしくルールを決めて、夜のメインイベント、枕投げ大会が始まりました。疲れ果てた子どもたちは22時には眠りにつきました。

夜、子どもたちとは別に行われたヨガ教室では、サッカー指導者や保護者が「こどもが怪我をしない体づくり」をテーマに、体幹を鍛える動きを取り入れながら、リラックス・集中力を身につけるポーズを学びました。

2日目は、午前中にサッカースクールを行いました。コーチやボランティアの人たちは、前の晩から念入りに打ち合わせており、「子どもたちにどのように教え、いかに楽しくサッカーに取り組んでもらうか」にポイントを置いて、一生懸命指導します。相双トレセンの指導者の方々も一緒に学びました。

楽しかった時間はあっという間に過ぎてしまい、最後は全員で記念撮影。「楽しかった！」とみんないい笑顔でした。昼食後、一行は元気よく手を振って相馬市への帰途につきました。

「また11月に会おうねー」。

「星槎こゆるぎカップ」に参加した子ども達



コーチやボランティアによる入念な打ち合せ



サッカースクールで汗を流す子ども達



枕投げの準備完了



帯広の夏を楽しむ 福島県相馬市のこどもたち

一番人気の川遊び



川に棲む生物を観察



乗馬も体験



芝のコースでパークゴルフ



4年目を迎えた「北の大地に会いに行こう」

東日本大震災で被災した福島県相馬市のこどもたちを夏休みに北海道に招待する「北の大地に会いに行こう」を8月3日から9日まで実施し、小学3年生から小学6年生の33人が帯広市を訪れました。震災後、屋外で自由に遊ぶことが許されない被災地のこどもたちに、北海道の大自然の中で、思いっきり走り回り、思いっきり遊んで楽しんでもらいたいという思いから始まったこのプログラムは今年で4年目になります。

帯広市郊外の自然豊かな牧場の中にあるカウベルハウスに宿泊し、野外活動を中心に十勝発祥のパークゴルフや、馬とのふれあい、帯広名物の豚丼づくりなどを行い、十勝の場所文化を体感してもらいました。

こどもたちに大人気だったのは川遊びです。36度の猛暑の中、帯広川伏古地区水辺協議会のみなさんの協力のもと、帯広川下流で川の中に生息するドジョウやザリガニの観察、川流れ体験を楽しみました。

様々な体験活動を通して関わり合いが生まれ、参加した小学生だけでなく、ボランティアで参加した星様の高校生、地域の方々や保護者も自然に世代を超えた仲間づくりができました。みんなで一緒に何かをするという体験は、相手の気持ちを考える心を育て、こども

もたちがこれから生きていく上での財産となることでしよう。

今回ボランティアで参加した高校生が「小学生からパワーをもらいました」と話していました。こどもたちのとびきりの笑顔、暑さも吹き飛ばす元気、挑戦する勇気は、周囲の人々にも笑顔と元気と勇気を与えてくれました。被災地のこどもたちが、これからも仲間を大切に、感謝の心を忘れずに、健やかに成長してくれることを心から願っています。

参加者感想文より抜粋

・ たくさんの行事がありました。川遊びのこどもたちの楽しそうなあの表情が忘れられません。遠く離れた大自然の北海道で、学校・学年の違うお友達との共同生活は、子どもにとって貴重な経験になったことでしょう。震災から4年が過ぎましたが、親としてはまだまだ目に見えない不安の中での生活が続いています。しかしこの1週間はその不安を忘れて子どもたちと楽しく生活させていただきました。本当にありがとうございます。

(同行した保護者)

・ 参加して良かったことは他校の友達がたくさんできたことと自然の空気をたくさんすえたことです。学んだことは、チームワークが大切だということです。とてもいい思い出ができました。

(小6)

・ みんなのことは見守り、一緒に遊んでくれた保護者のみなさんや先生たちにとっても感謝しています。ありがとうございます。またみんなと再会できるといいなと思います。

(小4)

世界陸上・男子マラソンで優勝 前進するエリトリア支援

2014年9月、スポーツ支援の協定を結び、世界でも財団の本格的な支援がスタートした北アフリカのエリトリア国。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、着々と前進しています。

3月、宮澤保夫専務理事は外務省の小林弘裕大使（アフリカに置く地域経済共同体平和・安全保障担当）とともに首都アスマラを再訪しました。同国オリンピック委員会（ENOC）、パラリンピック委員会、そしてそれらを統括するスポーツ文化庁と精力的に会議を行いました。これにより、具体的実施項目・スケジュールが確定してきています。併せて、自転車競技、陸上競技、サッカー競技の試合を視察し、選手、コーチを激励しました。

一方、この再訪には、アマチュア無線家が日本や米国、ドイツ、ロシアの各国から参加し、プロジェクトの広報と寄付金募集を行ってくれました。その結果、全世界から400万円を超えるご芳志を頂きました。この誌面を借りてお礼申し上げます。



来日した使節団 JOC 竹田会長と面会



星様 中学高等学校も訪問しました



エリトリアの国技である自転車レースやサッカーチームを視察



5月には ENOC のメハリ会長が再来日しました。5日間で短期間の滞在でしたが、内容の濃いものとなりました。日本オリンピック委員会（JOC）の竹田恒和会長との面会が実現し、エリトリア、日本両国のオリンピック委員会の間で協力協定を締結することに合意しました。時期としては来年のリオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピックを目処とすることになり、現在準備を進めています。

8月、世界陸上（北京）に エリトリア選手団の パーソナル・コーチとして参加

8月に北京で開催された世界陸上に、エリトリアからは9人の選手が参加しました。今大会の同国選手団のユニフォーム一式は、宮澤専務理事の交渉によりスポーツメーカーの「ミズノ」が提供してくださったものです。

エリトリア陸連より宮澤専務理事に選手団の一員として参加するよう要請があり、北京で大会初日のみ視



世界陸上に参加したエリトリア選手団



右からルウル陸連会長、宮澤専務理事、金メダルのギルマイ選手、ミズノの水野社長、タデツセ陸連事務局長

エリトリアと事前キャンプ招致協定を締結



調印式の後、小田原の競技場を視察



調印式は多くのマスコミが取材

察しました。オープニング種目となった男子マラソンでは、19歳のギルマイ・ゲブレスラシエ選手が見事金メダルを獲得しました。オリンピックを含めた世界大会で史上最年少で優勝するという快挙です。アマヌエル・メセル選手も9位と健闘しました。

レース前に本命視されていたエチオピアやウガンダの選手を破っての堂々たる優勝であったため、ギルマイ選手がスタジアムに帰って来た時には観客が総立ちとなり、競技場全体が歓声の坩堝と化しました。トラックに戻ってきたギルマイ選手にエリトリア国旗を何とか手渡そうとするコーチのイサイアス氏の絶叫は本当に印象的で、感動的なものがありました。

ギルマイ選手はその素養を高く評価される若手のホープですが、今回その実力を遺憾なく発揮してくれました。ただ、彼の素晴らしいのは絶えず周囲への感謝、配慮を忘れず、記者会見の席でも冒頭に両親をはじめ支援してくれた人々への感謝を口にしていました。スポーツには国籍を問わずこのような素晴らしい若者を

育てる力があることを痛感させてくれた瞬間でした。「エリトリア選手団に日本人スタッフがいる」と注目され、宮澤専務理事は急きょ広報担当と化し、日本をはじめ各国のマスコミの取材を受けることになりました。

また、同日夜行われた男子1万メートルでもエリトリア選手が見事6位入賞を果たしています。FGCの支援は始まったばかりですが、エリトリアが持つ潜在能力を開花させる一助となるべく今後とも活動していきます。

東京五輪事前キャンプ招致協定を締結

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会のエリトリア選手団の事前キャンプを神奈川県西湘地区に招致する協定が9月2日に横浜で締結されました。協定書には日本側から神奈川県知事、小田原市長、箱根町長、大磯町長が署名し、エリトリア側からはオリンピック委員長と宮澤FGC専務理事（エリトリアの日本側代理人）が名を連ねました。外務省やJOCにも出席いただき、民間連携初の事前キャンプ招致を祝っていただきました。

この招致協定は「キャンプ」関係だけに留まるものではなく、オリンピック・パラリンピックを超えて、また、スポーツの分野を超えてエリトリアとの民間レベルでの友好交流を目指すものとなっています。この活動をFGCとしても息長く支援していきます。



ネパール大震災支援 募金活動の報告

2015年4月25日、ネパールのゴルカを震源地にマグニチュード7.8の地震が発生しました。その後5月12日にもマグニチュード7.3の大きな余震が起き、およそ8700人が死亡、負傷者は1万7000人にものぼっています（5月30日現在）。

震災直後、山岳地方は道路が寸断され、支援は滞りました。ヒマラヤ山地の独特な地形もあり、ヘリコプターやオスプレイでの支援も困難を伴いました。電気も通っていないことから、携帯電話等での実態把握すら難しい状況でした。その後状況が少しずつ明らかになると、中部山岳地帯のドラカ郡の村は建物や学校全てが壊滅状態であることがわかりました。4617もの学校が壊滅、損壊し、子どもたちは教育が受けられなくなっていました。

このような状況の中、FGCでは現地に滞在する星槎大学の学生と連絡をとりつつ、緊急の募金活動を行いました。これまでに約120万円ものご厚志をお寄せ

いただきました。まずは取り急ぎ6月3日、現地で星槎大学生とともに活動するNGOマダン・クマリ・カレルメモリアルトラストに約103万円を寄付しました。

この団体では、寄付を受けて直ちに緊急支援の食糧を調達し、首都カトマンズから約10時間かけてトラックでドラカ郡の村々に届けてくれました。村は壊滅状態にあり、多くの村人は地震で受けた恐怖と継続する余震によりPTSD（心的外傷後ストレス）を発症しているそうです。モンスーン気候の中、雨風を凌ぐ家や学校の建設はもとより、子どもを含む村人たちの心のケアなど、中長期的な支援が必要となります。

皆様から頂戴したご寄付は、このほかに今秋にもドラカ郡の子ども達の支援のために活用させていただきます。

募金活動は継続しております。今後ともネパール山岳地方へ被災した子ども達の明るい未来につながる支援をよろしく願いいたします。



震災後45日目には青空学校が始まりました

建物の修復を手伝う子どもたち



支援物資の到着を喜ぶ村人たち



ドラカ郡の村々は壊滅状態



崩壊した学校の内部



「SEISA Africa・Asia Bridge 2015」を開催

11月15日(日)の10時から16時まで、星槎中学高等学校(横浜市旭区若葉台)および横浜市旭区若葉台団地エリアで、「SEISA Africa・Asia Bridge 2015」を開催します。

これまで星槎は海外との交流を活発に行ってきましたが、2020年のオリンピック・パラリンピック東京

大会開催に向けて、なじみの薄かったアフリカ地域にも焦点を当てていきます。こどもが主役となり、自ら発見し、調べ、体験する共感理解教育の題材として、異なる文化、歴史、自然、資源等を取り上げ、その国の人々に接しながら、どのような未来の地球を共に生きていくのかについて、考えるきっかけとします。

主催 SEISA Africa・Asia Bridge 2015 実行委員会
公益財団法人世界こども財団 星槎中学高等学校

お問い合わせ 星槎中学高等学校内 担当 蓮田(はすだ)
TEL:045-442-8686 E-mail:a_hasuda@seisa.ed.jp

FGCでは「寄付型自動販売機」設置に取り組んでいます

今年は猛暑が続きましたが、必要な時いつでも飲み物が購入できる自動販売機は便利なものです。通勤の途中、職場、学校、公園等どこにでも設置されています。

その自動販売機の売上の一部がFGCの寄付になったら素晴らしい、ということで取り組んできたのが、この寄付型自販機スキームです。そして、この度JR東日本の関係会社である株式会社ルミネクリエイツ様のご理解、ご協力を得られることになりました。同社がルミネ内に設置した自販機の一部を対象に、販売1本につき1円のご寄付を頂けるプログラムを作っていました。これにより、年間40万円前後のご寄付を頂戴しています。

また、星槎グループの全国にある学校や事務所にも自販機が多数設置されていますが、設置者および設置業者の皆様にはFGCの活動をご理解いただき、支援の

一形態として売上の一部を財団への寄付としてご提供いただいております。

これは自販機を利用する私たちにとっても、自分が飲料を購入することで僅かでもこどもたちを支援することができると思えば嬉しいことです。また、私たちの支援を必要とするこどもたち、人々が世界にはまだまだたくさんいること、そして私たちが今何をなさなければならないか、を考える契機にもなります。

企業・団体あいは個人でも、このようなご支援をお考えいただける場合には、ぜひ財団事務局までご連絡いただけますようお願いいたします。



連絡先 TEL ● 0463-74-5359 | E-mail ● fgc@fgc.or.jp (担当:小泉、森川)

「寄付モノ」にご協力ください 未使用のハガキ・書き損じハガキを大募集

世界こども財団では、年末年始にかけて「ハガキ」を集中的に募集します。余った年賀ハガキや喪中ハガキ。未使用のハガキであれば古いものでも構いません。書き損じたハガキも捨てずに、世界こども財団(下記住所)宛にお送りください。皆さまからご寄付いただいたハガキは、「寄付金」となって活動資金に繋がります。

世界のこども達のために、ぜひご協力下さい。

詳しくはこちら

<http://www.fgc.or.jp/join/kifumono/>



ブリュッセル弦楽四重奏団

東日本大震災復興支援チャリティーコンサート2015



世界子ども財団 (FGC) は、10月に北海道札幌市と帯広市でブリュッセル弦楽四重奏団のチャリティーコンサートを開催します。入場無料。弦楽の素晴らしさ、音楽の楽しさを体感しましょう。併せて、芦別市と帯広市に相馬市の子ども達を招待して野外活動の場を提供する「北の大地に会いに行こう」プロジェクトへの寄付活動も行います。

帯広公演
10月30日(金)
 開場 14:30 開演 15:00
 とかちプラザ・レインボーホール
 帯広市西4条南13-1 | JR帯広駅より徒歩3分

札幌公演
10月31日(土)
 開場 14:30 開演 15:00
 大谷記念ホール
 札幌大谷大学内・札幌市東区北16条東9-1-1
 地下鉄東豊線「東区役所前」駅、「環状通東」駅より徒歩7分

全席無料・自由席

チケットの
お申込み
お問い合わせ

星槎札幌もみじキャンパス
TEL ● 011-899-3830
 公益財団法人世界子ども財団
TEL ● 0463-74-5359
E-mail ● fgc@fgc.or.jp

主催 公益財団法人世界子ども財団
協力 星槎グループ 学校法人国際学園
後援 駐日ベルギー王国大使館 北海道教育委員会
 札幌市 札幌市教育委員会 北海道新聞社
 帯広市 帯広市教育委員会 NHK 帯広放送局 北海道新聞帯広支社
 十勝毎日新聞社 OCTV FM WING FM-JAGA 帯広ユネスコ協会

2015年2月～2015年8月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

寄付モノ	(円)	寄付コラボ商品	(円)
本	178,194	星の島産トマトジュース	売上より 2,300
はがき	92,750	写真集「大磯の蝶」	売上より 800
カード類 (テレカ・図書カード・各種金券等)	13,500	加藤登紀子様「百万本のバラ」コンサート	売上より 13,050
		自動販売機 (メーカー 18社)	売上より 1,032,103
合計	284,444	合計	1,048,253

全国の皆様からのご厚志に心より御礼申し上げます。

(2015年8月末)

ご協力いただいている企業・団体様 (順不同) 2015年2月～2015年8月

- アマチュア無線関係の皆様●(株)トキコ・プランニング●(株)矢部プロカッティング●(株)ルミネクリエーツ●医療法人誠励会 ひらた中央クリニック●ACCJ (米国商工会議所日本事務所) ●アイ・ネット・リリー・コーポレーション●(株)スペースクリエーター●(株)桜田商事●大磯町グラウンド・ゴルフ協会●(株)石山組●(株)アクティ建設設計●帯広ユネスコ協会●日本自閉症スペクトラム学会●博物館江戸民具街道●医療法人社団 KNI 北原国際病院●ミャンマー大使館●(株)DOE ●教育出版●(株)国際デュアルビジネス専門学校●(株)バリューボックス●(株)湘南ウイル●(株)ダイードリンク●西武商事●(株)サントリービバレッジサービス●(株)八洋 府中営業所●(株)八洋 新宿営業所●コカ・コーライーストジャパン●(株)コカ・コーラウエスト●北海道コカ・コーラボトリング●東京キリンビバレッジサービス●北海道キリンビバレッジサービス●北海道ベンディング●(株)ベネフレックス●ユニヴァーサル商事●(有)安田コーポレーション●大蔵屋商事●FVイーストジャパン●合同会社 エス・ブイ北陸●総合受験予備校 ツルセミ●神奈川県庁●大磯ロータリークラブ●大磯町役場●認定NPO法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に●コグメド・ジャパン●フルサワ印刷●東京大学医科学研究所上昌広研究室●ミズノ●

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真

- 上から ●世界陸上北京大会でエリトリア初の金メダリスト、ギルマイ選手と ●「北の大地に会いに行こう」に参加した相馬市の子ども達
- 事前キャンプ招致協定を締結。右から宮澤専務理事、中崎大磯町長、メハリ ENOC 委員長、黒岩神奈川県知事、加藤小田原市長、山口箱根町長
- ネパール大震災後 1カ月半で始まった青空教室



2015年10月1日発行

公益財団法人 **世界子ども財団**

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界子ども財団」で検索!

印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

